

最近の就業者数の変化

－「製造業」、「建設業」は減少、「医療、福祉」では特に女性が増加－

平成22年7月の就業者数(季節調整値)について、20年9月の米国大手証券会社の経営破綻(いわゆるリーマンショック)の前である20年7月と比べてみると、132万人減少しています。男女別にみると、男性は104万人の減少、女性は28万人の減少となっており、男女間で大きな差があることが分かります。また、産業別にみると、製造業や建設業が減少しています。

男性の就業者数は大幅に減少

平成22年7月の就業者数(季節調整値)は6246万人と2年前の20年7月に比べ、132万人減少しました。これを男女別にみると、女性の就業者数は28万人の減少となっているのに対し、男性の就業者数は104万人の減少となっており、女性に比べ大幅に減少しています。(図1)

就業者数は「製造業」、「建設業」で減少、「医療、福祉」では増加

就業者数(季節調整値)を産業別に平成20年7月と比べると、「製造業」では1145万人から1030万人と115万人の減少、「建設業」では543万人から502万人と41万人の減少と、就業者に占める男性の割合が高いこれらの産業において減少幅が大きくなっています。

一方、女性の割合が高い「医療、福祉」では593万人から642万人と49万人の増加となっています。(図2)

2年間で「医療、福祉」の女性就業者は38万人増加

「医療、福祉」の就業者数(原数値)を男女別にみると、平成20年7月に比べ、男性は9万人の増加にとどまっていますが、女性は38万人の増加と大幅に増加しています。(図3)

(参考) より詳しいデータ・資料はこちら

【図1に関連する結果表】

◆ [就業者数【年齢階級別】\(長期時系列表1\(2\)\)](#)

【図2に関連する結果表】

◆ [第12回改定日本標準産業分類別就業者数\(長期時系列表1\(4\)1\)](#)

【図3に関連する結果表】(平成22年7月)

◆ [産業、従業上の地位\(雇用者については従業者規模\)別就業者数\(基本集計第9表\)](#)

図1 男女別就業者数(季節調整値)の推移

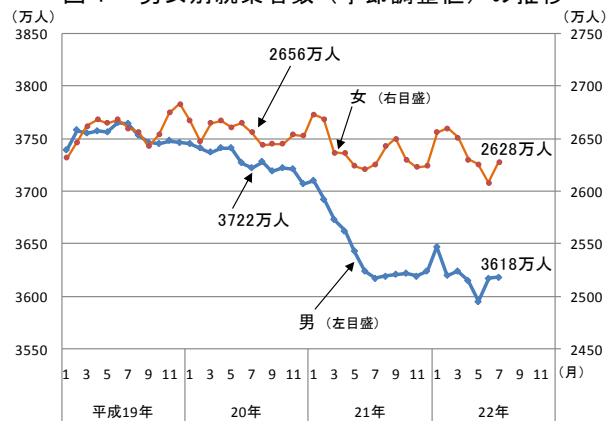


図2 産業別就業者数(季節調整値)の推移

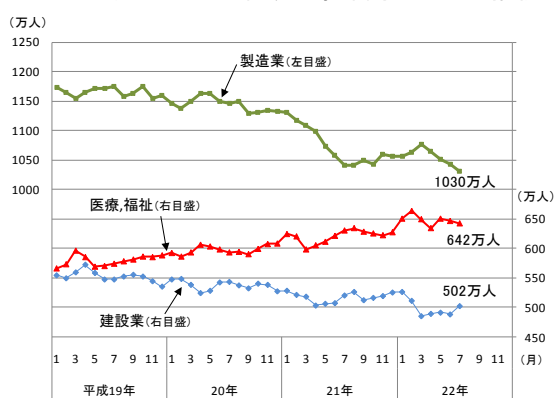
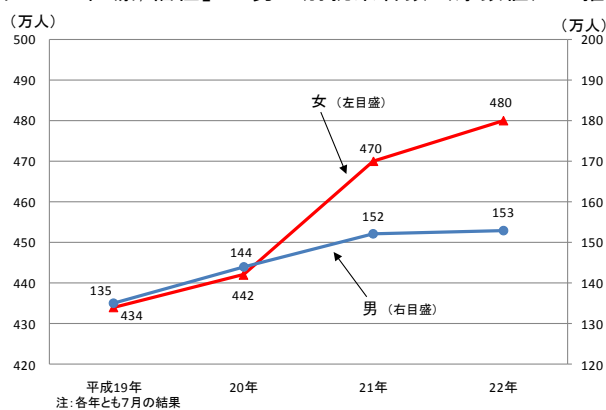


図3 「医療、福祉」の男女別就業者数(原数値)の推移



(平成22年9月30日掲載)